松山城三之丸跡１６次調査

日時：平成２６年1月２６日（日）　１０：３０～１１：３０

【調査の目的】

調査地は国史跡「松山城跡」の一部です。

松山市では堀之内の整備を進めていますが、整備のためには史跡としての歴史的情報を活用しなければなりません。そのため、松山市では整備のための基礎資料の取得と遺構の保護を目的に、古絵図を参考に平成１３年度から発掘調査を実施しています。現在堀之内に整備されている道路に関しても発掘調査の成果に基づくもので、地下には江戸期の遺構が残されています。

１６回目となる今回の発掘調査は、四国がんセンター跡地とラグビー場跡地において、第２期整備に伴う情報収集のために実施しました。調査の主目的は、三之丸御殿の南西角石垣を確認し、加えて三之丸御殿の南に位置する東西方向道路及び、御殿の西に位置する南北方向道路を確認すること、さらに東西道路の南側に位置する会所と御勘定所の境界を確認することです。なお、今回の調査から松山市都市整備部公園緑地課の委託を受けた公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団　埋蔵文化財センターが調査を担当しました。

【三之丸の機能】

●上級武士の居住区
●藩の役所（三之丸御殿、会所、御勘定所、小普請所、御用米蔵など）
●藩主の屋敷（三之丸御殿）〈貞享４[１６８７]年以降〉

【三之丸に関する主なできごと】

慶長 ７ （１６０２）年　加藤嘉明、三之丸ほか築城に着手
寛永 ４ （１６２７）年　蒲生忠知、松山に転封。この頃、築城工事完成
寛永１２（１６３５）年　松平定行、松山に転封
寛永１６（１６３９）年　三之丸に長蔵（御用米蔵）を設置
寛文 元 （１６６１）年　三之丸に杉馬場を設置
貞享 ４ （１６８７）年　三之丸に藩邸（御殿）を新設
天保１２（１８４１）年　三之丸の小普請所と勘定所を焼失
安政 元 （１８５４）年　大地震により、三之丸ほかで家屋倒壊
明治 元 （１８６８）年　土佐藩へ城明渡し
明治 ２ （１８６９）年　三之丸藩邸を新政府の松山藩庁として開庁
明治 ３ （１８７０）年　三之丸焼失
明治１１（１８７８）年　松山兵営を創設
昭和２７（１９５２）年　松山城跡、国史跡に指定

【用語解説】

●亀郭城秘図（きかくじょうひず）

文久４（１８６４）年に藩士野沢隼人により描かれたとされる古絵図。藩の役所は黄色、それ以外の屋敷は灰色で表現されている。

【今回の調査概要】

所在地

松山市堀之内

屋外調査期間

平成２５年９月２０日（金）～平成２６年１月３１日（金）（予定）

調査面積

約１８７㎡ （予定）

調査の概要

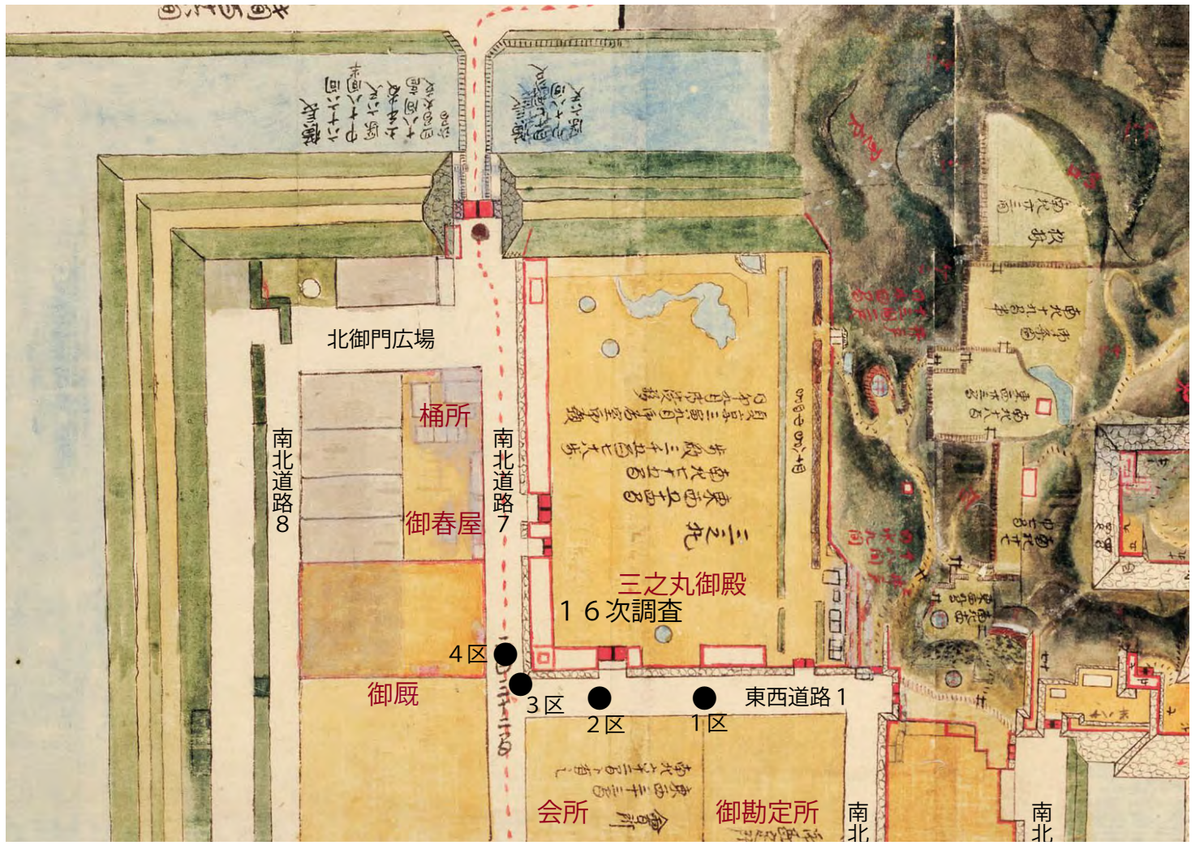
調査区は、三之丸御殿の南側石垣想定ラインに１区と２区を設定し、 三之丸御殿の南西角が想定される場所に３区、御殿の西側石垣想定ライン上に４区を設定しました。特に１区は東西方向道路の南側に会所と御勘定所の境界が確認されることが期待されました。

調査の結果、会所と御勘定所の境界を確認することはできませんでしたが、２区、３区、４区において三之丸御殿の石垣を確認し、道路及び道路側溝に関しても、改変を受けている個所もみられましたが、全体としては良好な状態で確認することができました。特に今回、３区において三之丸御殿の南西角を確認したことは、今後の史跡整備にとっても価値の高いものであると考えられます。

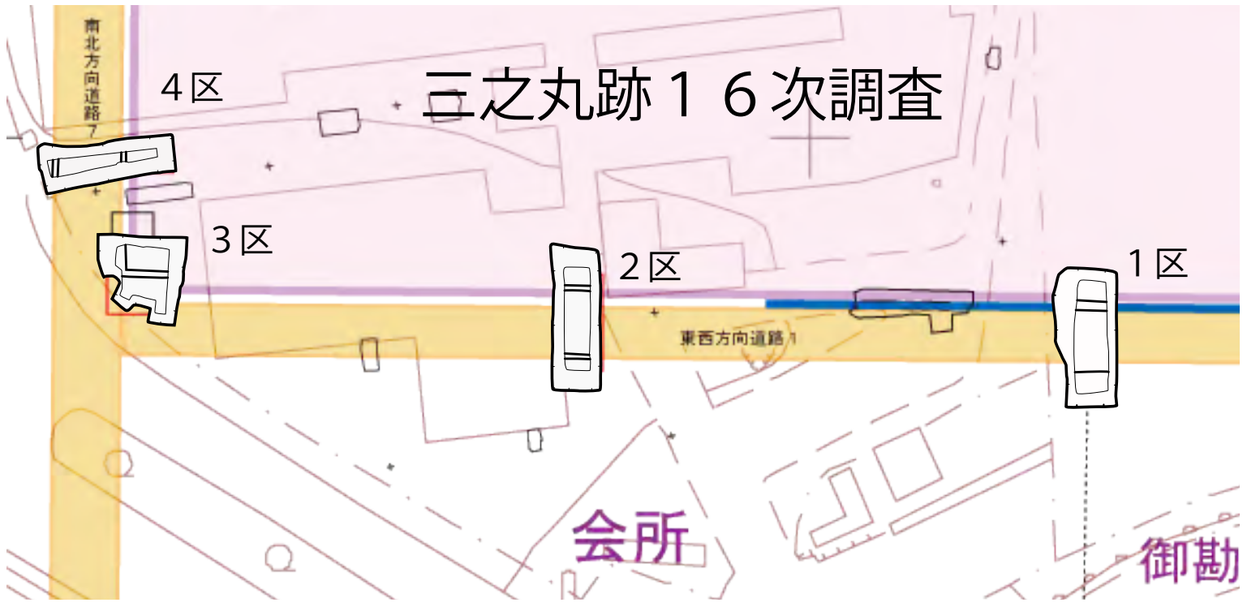
出土遺物としては、久松松平家の家紋である星梅鉢紋の入った鬼瓦や金銅製の飾り金具など三之丸御殿にふさわしい遺物が出土しています。また、三之丸御殿が新政府の藩庁として開庁し、消失するまでの限られた時期の貴重な資料として、裏側に「出納」と墨書された幕末期の磁器皿（砥部焼）が大量に出土しています。さらに、大筒の玉と考えられる鉛玉は、直径が約４７mm、重さ５７３.８１ｇ（≒１５３匁）を測る大型のものです。

星梅鉢紋鬼瓦
（３区出土）

星梅鉢紋入金銅製飾金具
（３区出土）



『亀郭城秘圖』（文久４[１８６４]年、部分） 伊予史談会蔵



１区　東西道路北側側溝（北西より）

２区　東西道路南側側溝（東より）

２区　東西道路北側側溝（東より）

３区　三之丸御殿石垣南西角（南より）

４区　南北道路西側側溝（南東より）

４区　南北道路東側側溝（南西より）